## 平成２９年度英語科海外ホームステイ研修報告
７月２４日（月）

本日のオーストラリアは、昨日に比べぐっと気温が下がり、Joshua 先生が「ここ数年で一番の寒さ」とおっしゃるほど、冷え込みが厳しい冬らしい朝を迎えました。しかし、日中は太陽がさんさんと注ぎ込み、気温が急上昇します。一日の間に季節が変わってしまったのかと思うほど寒暖の差が激しいので、生徒が体調を崩してしまうのではと心配です。しかし、そんな心配をよそに、凍えながらも生徒たちは元気に登校してきました。

今日からホストスクール Livingstone Christian College（ＬＣＣ）での学校生活が始まりました。ＬＣＣは 2002 年設立、ゴールドコースト北端に位置し、幼稚舎から高校３年生までが在籍する共学の私立一貫校です。初日の今日、さすが郡高生、誰も遅刻することなく集合時間までに全員が揃い、良いスタートを切ることができました。また、「郡山高校の制服が素敵」とファミリーから好評です。

バディとの対面の前に、ＬＣＣの Mark 校長先生から歓迎のご挨拶を頂きました。オーストラリアでの生活を成功させるための３つの「鍵」は、

①Please. Thank you. Can I help you? という３つの言葉を誰に対してもどんな場面でも使用すること。
②Put in a little, get out a little, but put in a lot, get out a lot.（自分の行動次第で結果は大きく変わってくること）　そして、
③現地に来て何度も耳にしたフレーズ “Don’t be shy.”（失敗を恐れる気持ちが日本人学生は特に強いが、その恐怖心は誰の心にもある普通の感情であり、オーストラリアの学生も同じくシャイである。お互いに歩み寄らない限り心の距離を縮めることはできない）

であるとお話し頂きました。頭では理解していても、実際に行動に移すとなると難しいものですが、非日常空間だからこそ発揮できる力もあるはずです。Mark 校長先生のお言葉を踏まえ、今後生徒たちがどう変化していくのかが楽しみです。

校長先生からのご挨拶の後は２つのグループに分かれ、現地校生徒によるキャンパスツアーに出かけました。オーストラリアの高校では個々の自立、自主性を育てるという考えが基盤にあり、日本では珍しい演劇やダンスなどユニークな選択科目が沢山あります。

説明に対し頷き聞くという、ある意味ツアーらしい形で進んでいきました。しかし、ある場面でその雰囲気は一転します。それはツアー終盤、貼られていたポスターの中にガイドをしてくれている現地高生を発見し、“You?” と質問したことからでした。このたった一言で笑いが起こり、郡高生と現地校生との間にあった距離はみるみる縮まり、説明をただ聞いて頷くだけの「見学」から「交流」へと変化したのが印象的でした。完璧な英語を話す必要はなく、単語を発するだけでも充分コミュニケーションのきっかけとなることを、このツアーを通じて経験していって欲しいと思います。

キャンパスツアーの後はいよいよ、バディとの交流です。一人一人名前を呼ばれ、対面していく緊張の瞬間でしたが、ファミリーとの関係で慣れてきたのか、笑顔で握手をし、初対面を果たす郡高生の姿がありました。今後バディとは、Morning Tea Time という休憩時間やランチ、授業に一緒に参加するなど、交流をする機会は沢山あります。まさにこのチャンスをどう活かすかは自分たち次第です。

バディとの交流について「楽しかった」「仲良くなれた」と喜ぶ生徒もいましたが、どのように接すればいいか戸惑い悪戦苦闘している生徒が大半でした。確かに生徒の様子を見学すると初日ということもあってか、日本人同士で固まり、話しかけてくれるのをひたすら待つという「受け身」の姿勢が多く見受けられました。少しの勇気を持って自分のコンフォートゾーンから飛び出すことで、状況は大きく変わってきます。自分のことや日本のこと、それぞれ話のきっかけになる武器は沢山持っているはずです。それをどう伝えるか、そして相手に興味を持ち「質問」することで、会話が生まれることを知る良い機会です。試行錯誤しながら、"visitor" から" "buddy" になれることを期待します。

明日は午後高齢者福祉施設を訪問し、プレゼンテーションを行う予定です。堂々元気に発表し、福島の魅力を現地の人にお伝えしてくれるのを楽しみにしています。